

## ①「数値目標の設定」及び「部活動の地域移行の取組」の第6章への追記について

## ②数値目標の指標「20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率の向上」と「スポーツ参画状況(「する」「みる」「ささえる」とwell-being(ウェルビーイング)の向上)」について

- 事務局案に賛成である。

## ③「目標値」「達成年度」について(スポーツ実施率)

- 前回の計画が現実志向で設定しており、大阪府として一貫した考えで設定する必要もある。
  - 70%は、ほぼ達成できないので、達成することを持って60%とすべきでは。
  - 目標値は達成しなければならないものだが、一方で目指すものとして、国の基準として70%というの分かる。
  - コロナ禍の影響の分析が無い中、2020(R2)年度の数値を根拠に指標とすべきなのは疑問である。本来目指す70%が良いと思う。
  - 目標は達成するものであり、現実的な考えをすべき。ただ、(2020(R2)年度:過去最高の)59.5%の数値が本当に正解なのか根拠がなく、分からない。
- ➡ 令和8年度、70%を設定することで確認。

## ④「目標値」「達成年度」について(スポーツ参画状況)

- 先ほどの指標の数値が70%であるのなら、今回も100%でいいのではないかと考える方が良くないかと思う。
- 一方でウェルビーイングに影響する要因はたくさんある。参画してなくても半数近くは充実していると回答している。
- 100%を設定すべきと思うが、スポーツに全く興味がない人を否定しかねないので表現には、注意がいる。
- 書き方として、スポーツに参加することでウェルビーイングが上昇するのではなく、ウェルビーイングの向上にも結び付く参加率の向上、とすべき。
- 価値観を押し付けない形で、幅広くスポーツに関わるのが良い。
- (参考5)スポーツをしたことではなく、した結果、仲間が増えること等がウェルビーイングを高めることがわかる。
- (参考5)府民の地域スポーツクラブの会員と非会員とのデータを分析すると、会員である方が満足感などの意識が高い。また、クラブをととしての人間関係によるネットワークがウェルビーイングにつながっている。

- ➡ 令和8年度、100%を設定することで確認。

# 令和6年度 第1回計画部会(令和6年12月12日)における主な意見

## ⑤参考指標について

- 項目(大阪府ではスポーツが盛んだと思う人の割合)を追加することはOK。あくまで参考なので、ワールドマスターズゲームズ2027関西の認知度や大阪マラソンの外国人エントリー数も追加してはどうか。

## ⑥学校部活動の地域移行について

- 総合型地域スポーツクラブが受け皿となれるかの問題。学校部活動の地域移行は、地域におけるスポーツの在り方が変わると想像する。
- 学校部活動の地域移行については、「国の動向等を踏まえた府の取り組み」に記載することのだが、これを踏まえたアクションとして、「計画の見直し」の中でも記載したほうがよいのでは。
- 部活動の地域移行については、話題性があり待ったなしの状況。一方で国の方針を見極めることが必要。
- 部活動地域移行におけるモデル事業の取り組み事例を書けないか。
- 数値目標を設定することが難しければ、参考6:資料P10にある配置支援実績等を参考指標として入れても良いのでは。
- 地域移行により学校部活動は広がりを見せるが、スポーツが苦手でも自由時間を充実できるよう、色々なスポーツを楽しみ、様々な子供たちが参加できるように、どれだけ地域の受け皿を用意できるのかが重要。
- 生徒の意見、現場ではどのような状況かを聞きたい。



## 計画見直しへの反映

- 見直しの「数値目標の設定」及び「部活動の地域移行の取組」については、第6章に追記する。
- 数値目標として、①「20歳以上の週1回以上のスポーツ実施率の向上」と②「スポーツ参画者(する、みる、ささえる)の割合」を設定する。
- ①の目標値は「70%」、②の目標値は「100%」とし、目標達成年度はいずれも令和8年度とする。
- 参考指標として「大阪府ではスポーツが盛んだと思う人の割合」「ワールドマスターズゲームズ2027関西の認知度」「大阪マラソンの外国人エントリー数」を追加する。
- 学校部活動の地域移行について、国の動向等を踏まえ府の取組についてを追加する。